

あおり漁連

代表理事会長 植村正治書

資源有限漁業無限

No.
132



へい死状況を視察する三村県知事（川内町に於て）

CONTENTS

むつ湾ほたて貝へい死対策に係る陳情……………	1
WT O日本提案実現全国漁民大会開催……………	2
平成15年度「青森県豊かな海づくり大会」開催……………	3
第3回「和船競漕大会」開催される……………	4
平成15年度ほたて供養祭・むつ湾漁業振興会通常総会…	5
青森県さけます増殖振興協会通常総会……………	6
青森県さけ流通振興協会通常総会……………	6
東北・北海道漁協専務参事懇談会開催……………	7
青森県定置漁業協会研修会開催……………	8
全国漁業協同組合学校生徒募集……………	9
主な水産に関する動き(7～9月)……………	10
県内漁協紹介（川内町漁協）	



へい死した耳づり貝

2003 11

21世紀は漁村の時代

むつ湾ほたて貝へい死対策に係る陳情

県漁連の本年度ほたて取扱計画では、数量9万トン、金額では100億円見込んでいたが、今春4月頃からむつ湾東部海域を中心に異常貝の発生やへい死が見られ、本年度末の見通しとしては数量で約7万トン(70%)、金額では約72億円(72%)前後まで落ち込むものと予想されている。

このことは、昭和50年以來の異常へい死となり、今後のほたて漁業に大きな影響を及ぼすことになる。

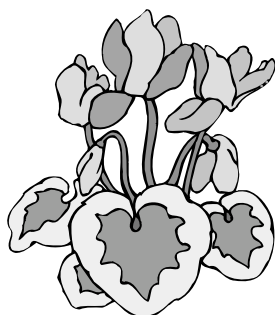
県の増養殖研究所の発表によると、この原因としては3月から4月にかけて発生した暴風・時化により半成貝がぶつかり合ったこと、海底の泥等が巻き上げられ、鰓や外套膜に損傷を負ったことが考えられるとのことであるが、今後のほたて漁業の維持安定を図るため、更に詳細な原因究明に努めると共にほたて漁業者の救済措置を講じていただくよう、県知事に対し業界団体や関係市町村長が陳情を行った。

これを受けて、8月22日に三村県知事は野辺地町漁協、川内町漁協、脇野沢村漁協へ督励巡回を実施した。この中で三村県知事は「このような事態となり、皆さんのところへ何うことになったのは大変つらいものがあります。

県としては、漁業者皆さんの窮状を重く受け止め、今後の対応を一生懸命やりますので皆さん一緒に頑張りましょう」と激励した。

へ陳情内容

- 1、ほたて貝へい死の原因究明と漁場環境保全対策について
- 2、制度資金の融資に対する債務保証並びに利子補給について
- 3、産卵母貝となる地まき貝確保のための助成措置について
- 4、ほたて貝特定養殖共済掛金に対する県嵩上げ補助について
- 5、ほたて貝特定養殖共済金の早期支払について



陳情について回答する三村県知事



へい死対策について陳情する植村県漁連会長

WTO日本提案実現全国漁民大会 開催

「水産物の関税撤廃断固反対」「政府は日本提案の貫徹を」

― 漁業者代表2000人参加 ―

JF全漁連、(社)大日本水産会、全国水産物輸入対策協議会は8月27日、東京・日比谷公会堂で政府に対し日本提案の貫徹を求めた「WTO日本提案実現全国漁民大会」を開催した。この大会は7月9日開催された「WTO危機突破全国漁民緊急集会」を上回る規模の大会となった。大会には全国約2千人の漁業代表者、自由民主党、公明党、保守新党の与党政策責任者らの来賓も多数参加し、いずれも水産物の関税撤廃断固阻止を訴えた。

大会は、大日本水産会・中須会長の開会宣言で始まり、主催者を代表してJF全漁連・植村会長が「輸出国の利益に偏重したジラール議長案は、水産物を関税撤廃品目に押し込んでいいる。我々は、自国そして世界の漁業・漁村の維持存続のため絶対提案を阻止しなければならぬ」と力強く挨拶した。続いて友誼団体として、(社)韓国水産会・朴理事長、全国農協中央会・塚田常務が挨拶後、長崎県美津島町漁協・嘉瀬組合長が意見表明をし、JF全漁連・佐藤副会長が決議文を読み上げ満場一致で採択した。また、会場に駆けつけ

た与党議員を代表して自由民主党・保利水産総合調査会長、同じく中川農林水産物貿易調査会長、公明党・井上幹事長代理、保守新党・山谷政務調査会副会長がそれぞれ支援表明を行なった。大会後漁業代表者らは、日本提案の貫徹を求め都内をデモ行進し要請活動を行なった。

(決議文は別記)

WTO日本提案実現を求める決議

我が国は、WTO交渉において、世界の水産資源が減少する中、持続可能な漁業の実現こそが貿易発展の基礎であり、漁業・漁村の役割にも適切な配慮が必要であると主張し、有限天然資源としての水産物に対する特別な配慮を確保するため、柔軟な市場アクセス方式を提案してきた。

しかし、鉱工業品目が多数を占める非農産品市場アクセス交渉グループのジラール議長は、水産物を単純に関税撤廃分野に入れるとともに、関税削減は全品目一律適用とする内容のモダリティ要素案を提示した。

これは、水産物を鉱工業製品同様の貿易物品としか考えない水産物輸出側国の利益に偏重した姿勢であり、個別資源の状況等に依存する小規模漁業、漁村の維持発展を阻害するもので、到底受け入れられない。

累次の関税引き下げで目一杯の自由化を受け入れてきた我が国では、国内生産額に匹敵する1兆7千億円もの水産物が毎年輸入され、国内の漁業関係者の努力にもかかわらず魚価低迷から経営が悪化し、漁業の存続がやぶまれている。こうした折に、関税撤廃といった更なる自由化の推進は、漁業を崩壊に導くものと強く危惧する。

ついで、漁業・漁村の維持存続のため、政府、国会が下記事項の実現を貫徹するよう、全国の漁業者の総意をもって要請する。

記

1. 市場アクセス交渉において、水産物の関税撤廃を断固拒否すること。
2. 漁業・漁村の維持発展のため、漁業補助金の一律削減・撤廃を阻止すること。
3. WTO交渉、また二国間の自由貿易協定において、水産資源の持続的利用を確保し、各国の漁業・漁村社会の存続を脅かさないようなルールを実現すること。

以上、決議する。

平成15年8月27日

WTO日本提案実現 全国漁民大会



主催者を代表して挨拶するJF全漁連・植村会長

平成15年度

「青森県豊かな海づくり大会」開催

平成15年度「青森県豊かな海づくり大会」が去る7月20日（日）、青森市の県水産ビルにおいて、県内漁協や水産団体関係者約250名が参加し盛大に開催された。

大会では、植村大会実行委員会会長が主催者の挨拶を述べ、続いて来賓の三村県知事、上野県議会議長が祝辞を述べた後、本県水産業で他の模範となる優れた実績を上げた1団体2個人に対して、三村県知事より「青森県水産大賞」が贈られた。

表彰に続いて、県漁業士会の坂岡正彦さんが「時代を見据えた漁業者を目指して」と題して発表。更には、県漁協女性組織協議会の秋田京子さんが「海の環境づくりの輪を広げよう」と題して

浜の声をそれぞれ発表した。

主催者の挨拶を述べる植村会長

最後に、古川大会実行委員会副会長が大会決議を朗読し、満場一致で決議が行われた。
また、大会終

了後、子供たちや大会関係者によるヒラメ・メバルの稚魚放流が行われ、大会は盛会にうちに終了した。

○青森県水産大賞受賞個人及び団体は次のとおり。

新 田 常 雄（前佐井村漁協組合長）
三津谷 廣 明（むつ湾漁業振興会長）
小川原湖漁業協同組合



稚魚の放流



祝辞を述べる三村県知事

大会決議

平成15年度 青森県豊かな海づくり大会

我が国は、累次におよぶ水産物の関税率引き下げによる自由化を受け入れてきた結果、市場には国内生産に匹敵する大量の水産物が流入して魚価低迷を招き、漁業経営は懸命の努力にも拘わらず、コスト割れによる減船、廃業等、極めて厳しい状況にある。

このような過大な貿易拡大は、世界の水産資源の枯渇に繋がり、本県のみならず国民の食料たる水産物の安定供給を唱える上で、避けては通れない大きな問題である。

また、漁業を永続的なものとするため、海浜・漁港の美化推進運動等を通じて、地域住民が集う、魅力溢れる美しい漁村づくりを推進することも重要な課題である。

我々は、青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承するため、

1. 持続利用可能な水産資源の回復を図るため、WTO水産物交渉のモダリティ要素案による水産物の関税撤廃に断固反対する。
2. 海浜及び漁港周辺の清掃・美化運動を通じて、魅力溢れる美しい漁村づくりを推進する。

よって、平成15年度青森県豊かな海づくり大会の開催にあたり、私たち県民が一丸となって「資源回復と美しい漁村づくり」に取り組むことをここに決議する。

平成15年7月20日

青森県豊かな海づくり大会実行委員会

第3回「和船競漕大会」開催される

海洋国日本の繁栄を願う日として、平成8年に国民の祝日7月20日が「海の日」となったことは、本県としても大変喜ばしいことである。

そこで、和船による漁業及び海上交易が盛んであった往時を偲び、小学生によるボート競技や和船とクルマガイ（車櫂）を使用した職場対抗競漕等を実施し、櫂を漕ぐ技法の伝承を図るとともに、この行事を継続的に実施することにより、青森県の夏の風物詩、伝統的な行事を育てることを目的として、県内各地から17チームが参加し、昨年に引き続き「和船競漕大会」が去る7月20日に青森市青い海公園前で開催された。

和船は、昭和30年代ごろまで県内でコンブやエゴノリ漁などに広く使われていた木製の小船で、みちのく北方漁船博物館が収蔵していたものを使用した。

参加者は4人1チームとなり、独特のこぎ方を要する「車櫂」で和船を200m走らせたが、大半が「車櫂」は未経験とあって船の操作が難しく、観客からは拍手や笑いが巻き起こっていた。

大会関係者は、来年以降も引き続き和船競漕大会が開催されるので、是非ご参加をいた

だきたいと呼びかけていた。

へレース結果は次のとおり

優勝	野牛漁業協同組合（2年連続優勝）
準優勝	鱸作漁業協同組合
第3位	野辺地町漁業協同組合
第4位	後潟漁業協同組合
第5位	六ヶ所村漁業協同組合
第6位	ホソイチ



主催者の挨拶を述べる植村大会委員長



和船競漕風景



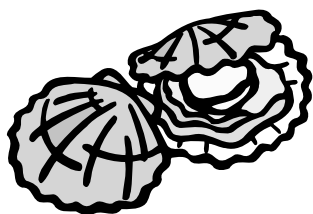
2年連続優勝の喜びを語る野牛漁協チーム

平成15年度

ほたて供養祭・むつ湾漁業振興会通常総会

むつ湾漁業振興会・県漁連など、むつ湾ほたて漁業関係者による「ほたて供養祭」が去る7月7日、青森港ほたて供養塔前で行われた。今年で20回目を迎えた供養祭には、むつ湾漁業振興会三津谷会長、青森県漁連植村会長、青森県農林水産部清藤次長ら関係者約40名が参加し、近年ほたて漁業は大変厳しい状況に立たされているが、関係者が一丸となり今後もほたて漁業の推進に邁進することを誓い、ほたて漁業の一層の発展を祈願し、玉くしを捧げた。

この後、むつ湾漁業振興会（三津谷廣明会長）の平成15年度通常総会が青森県水産ビルで開催され、平成14年度収支決算、平成15年度の活動方針及び収支予算（案）など全議案が承認可決された。



玉串を捧げる小鹿むつ振副会長



総会風景



ほたて供養塔

平成14年度

青森県さけます増殖振興協会 通常総会

青森県さけます増殖振興協会の通常総会が、7月28日（月）、青森県水産ビルで開催された。

冒頭、植村会長が、健苗づくりをめざし稚魚を1億3千万尾放流している、今後とも河川と海面が協力し事業の推進を図って頂きたいと述べた。また、水産物の輸入問題により、さけますにもかなり悪い影響が出ている、先般その輸入問題である関税撤廃に断固反対する「全国漁民緊急集会」が開催されたが、今後も日本提案の実現に向け最大限の努力を致したいと述べた。続いて来賓である三村青森県知事（代理・奈良岡水産振興課長）より祝辞後、植村会長が議長となり議事に入った。

議案は平成14年度事業報告・収支決算、平成15年度事業計画・収支予算・役員改選等、第1号から第5号までですべて承認可決された。なお任期満了に伴う役員改選の結果は次のとおり。

※役員改選結果

会 長	植 村 正 治
副 会 長	古 川 俊 三
理 事	西 崎 義 三
理 事	黒 坂 栄 蔵
理 事	小 山 内 実
理 事	山 本 政 廣
理 事	伊 藤 正 男
理 事	立 石 政 優
理 事	三 國 昭 治
理 事	川 端 憲 二
理 事	赤 石 憲 二
理 事	澤 口 政 仁
理 事	木 村 民 二
理 事	森 村 長 保
監 事	大 沢 次 男



植村会長挨拶



三村県知事挨拶
（代理・奈良岡水産振興課長）



総会風景

平成14年度

青森県さけ流通振興協会 通常総会

青森県さけ流通振興協会の通常総会が、7月28日（月）、青森県水産ビルで開催された。

冒頭、植村会長が、本県のさけ漁業は水揚げの不振、価格低迷等非常に厳しい状況にある、当協会は県内外での「北国青森のさけ」の即売、宣伝等を行っているが、今後も消費者に青森のさけをアピールするために事業を進めていくと述べた。続いて、来賓である秋谷農林水産部長（代理）小川流通加工課長より祝辞後、小泊漁協佐藤組合長を議長に選出し議事に入った。

議案は、平成14年度事業報告・収支決算、平成15年度事業計画・収支予算等、第1号議案から第5号までですべて承認可決された。なお任期満了に伴う役員改選の結果は次のとおり。

※役員改選結果

会 長	植 村 正 治
副 会 長	西 崎 義 三
常 務 事 務	古 川 俊
理 事	久保澤 正
	坂 本 貢
	手間本 信
	田 中 勝 年
	山 本 政 廣
	三津谷 明
	赤 石 憲 二
	澤 口 政 仁
監 事	森 口 政 保
	川 向 長 敦



植村会長挨拶

平成15年度

東北・北海道漁協専務参事懇談会開催

去る8月21日、北海道札幌市において、東北、北海道の漁協の専務、参事等150人が出席し、「平成15年度東北・北海道漁協専務参事懇談会」が開催された。

懇談会開催にあたり、北海道漁協専務参事会 織田勝二会長が主催者を代表し、「激動する漁業環境については、輸入水産物の増大による魚価の低迷等厳しい状況にあります、東北・北海道の各漁協専務参事が漁協運営の実務責任者としてより研鑽を深め、対処して参りたい。」と挨拶を述べた。

続いて、参加者県を代表して昨年の開催県である青森県漁協専務参事会 酒井副会長より「我々は、JFグループの一員として、組合員の負託に応えていくため、経営基盤の強化に取り組み、環境に配慮した『安全・安心な水産物の安定供給』と『地域経済の発展』、そして『永続的な資源管理』を図り、漁業を次世代に引継いでいく重要な使命がある。」と挨拶を述べた。

基調講演には「デフレ経済の情勢下における魚価安定対策」と題して、魚価安定基金理事長 佐竹五六氏よりご講演を頂き、その後各道県による事例発表4件・共通対策提案

事項1件の発表が行われた。

事例発表

①青森県 「むつ湾ホタテ養殖作業の軽減と

漁協リリース事業について」

平内町漁協 参事 久慈 勝繁氏

②岩手県 「重茂漁協の組織、

事業内容について」

重茂漁協 参事 山崎 義広氏

③宮城県 「みやぎにおける食の安全

安心への取り組みについて」

宮城県漁連 企画室長 小野 秀悦氏

④北海道 「産地新システム事業」導入効果

について」

長万部漁協 専務理事 山中 弘春氏

共通対策提案事項

「WTO等水産物貿易自由化対策について」

北海道漁協専務参事会会長 織田勝二氏
共通対策提案事項については、WTO水産物交渉における関税の引き下げ、撤廃を阻止するとともに10制度を堅持することが参加150名の漁協専務・参事等の総意をもって決議され、要望書が全漁連 佐藤国際対策室

長に手渡された。

懇談会終了後は交流会が開かれ、意見交換等親睦を深め、盛会のうちに終了した。



参加者県を代表して挨拶する酒井副会長



懇談会風景



事例発表をする平内町漁協久慈参事

平成15年度 青森県定置漁業協会研修会開催

去る8月28日、青森市浅虫温泉「柳の湯」

において、青森県定置漁業協会主催により、会員及び定置従事者を対象とした『平成15年度青森県定置漁業協会研修会』が開催された。

研修会開催にあたり、西崎義三会長が主催者を代表し、「諸外国からは日本輸入水産物の増大、関税撤廃の声が出されているが、我々はこの関税撤廃を断固阻止しなければならない。また、これからは日本近海で漁獲された水産物は、安全・安心であるということが最も大切であり、日本の漁業を自ら守っていくという自覚を持たなければならない。」と挨拶を述べた。

今回の研修は食の安全・安心に重点をおき、



主催者を代表して挨拶する西崎会長

「食の安全・安心を考える」・「青森県食の安全・安心対策総合指針について」と題して青森県健康福祉部 食の安全・安心対策チーム 副参事 伊藤正光氏、主査 富

永勝弘氏、「定置網漁獲物の品質管理」と題して青森県ふるさと食品研究センター 研究調整監 中谷肇氏を講師としてお招きし、ご講演を頂いた。

研修内容は次の通り。

○青森県の安全・安心対策総合指針

基本方針1 消費者自ら食品の安全確保に取り組んでいきます。

基本方針2 消費者の視点に立った県産食品を生産し、提供していきま

す

基本方針3 食品の衛生管理を徹底していき

ます。

基本方針4 食品の監視指導・検査体制を強化していきます。

基本方針5

健康な食生活・食習慣を

身につける

「食育」を展開していきます。

基本方針6

危機管理体制

制を充実していきます。



伊藤副参事

○漁獲物の品質管理

(1)魚類の死後硬直

①硬直中はイノシン酸が最も多くなる。

②苦悶死魚のほうが即殺魚よりも硬直開始が早い。

③完全硬直までの時間は温度によって異なるが、赤身魚(サバ・ハマチなど)では短く、ヒラメやマダイでは長い。

(2)漁獲後の処理方法

理方法

定置網漁業で

は、多くの種類の魚類がいろ

ろな状態(栄養

状態、疲労状態)

で漁獲され、船

上で苦悶死する

ので、5~10℃

に保管して硬直

を開始の遅延を図るよりも、0℃に保って硬直

を持続させる方がより現実的である。

漁獲物を0℃に冷却することにより食中毒

細菌の増殖を抑制できるので、鮮度保持と衛生

管理の一石二鳥の効果が得られる。



中谷研究調整監

全国漁業協同組合学校 平成16年度(65期) 学生募集

自立JFを担う 若きリーダーの養成校

全国漁業協同組合学校(植村正治学校長)

では、漁村の中核体である水産業協同組合の役職員として、漁業の振興、漁村建設の「先達」となる人材の要請を目的に、広範な知識の修得と高度の能力と併せて組合運動の明日の担い手として、自主・自立・相互の精神を体得させることに特に力を注いでいる。

また、こうした教育の一層の効果を図るため、少人数教育とし、かつ、全寮制の下に全学生が寮生活を通じて連帯意識の育成と協同の精神の涵養に努めている。

1、修業年限 1年

2、募集人数 50人(男女共学)

3、入学資格

入学資格をしっかりと持ち、健康で、漁業協同組合系統団体の推薦を得た者が、次に掲げる各号のいずれかに該当し、本校の行う選考に合格した者。

(1) 1ヶ年以上漁業に従事し、または漁業協同組合系統団体に勤務中の者。

(2) 高等学校卒業者(平成16年3月末までに卒業見込の者を含む) または、これらと

同等以上の学力を有すると認められる者

4、応募手続

(1) 提出書類

応募者は、次に掲げる書類を提出するものとする。

ア、入学願書

イ、成績証明書(出身学校長の発行するもの、但し、高等学校出身者は調査書

ウ、健康診断書

エ、推薦書

(2) 入学選考料

金額 3万円(郵便定額為替証書)

(3) 応募書類の提出期日及び提出先

応募者は、提出書類(ア～エ)に入学選考料を添付し、応募者の出身地域の漁業協同組合連合会長宛、平成15年12月1日より平成16年1月17日までの期間中に提出する。

5、入学選考方法

(1) 選考は、書類審査、小論文及び面接を行い、総合選考によって入学者を決定する。

ア、小論文及び面接は、各県漁業協同組合連合会に委任して実施する。

イ、現職者は小論文を免除する。

(2) 小論文及び面接の日時と場所

ア、実施日時

平成16年2月13日(金) 午前10時

イ、実施場所

各県漁業協同組合連合会(応募手続き書類を提出した連合会)

続き書類を提出した連合会

6、入学許可発表

平成16年2月20日(金)

合格者に入学許可書及び入学手続きに必要な関係書類を送付する。

(連絡先)

全国漁業協同組合学校

〒277-0854

千葉県柏市豊町1丁目4番5号

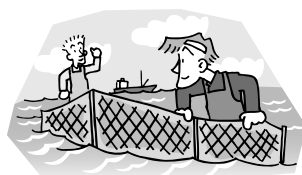
TEL 0471-4418125～6

青森県漁業協同組合連合会 指導課

〒030-0803

青森市安方一丁目1番32号

TEL 017-722-4218



主な水産に関する動き

(7月～9月)

7月

7日(月)

むつ湾漁業振興会総会

・ほたて供養祭(青森市)

9日(水)

全国漁民緊急集会(東京都)

20日(日)

和船競漕大会(青森市)

20日(日)

青森県豊かな海づくり大会

(青森市)

28日(月)

青森県さけます

増殖振興協会総会(青森市)

28日(月)

青森県さけ流通振興協会総会

(青森市)

8月

4日(月)

日本海地区漁業者

協議会(鯺ヶ沢町)(鯺ヶ沢町)

5日(火)～6日(水)

全国指導部課長会議(東京都)

7日(木)

さけます資源管理連絡会議

(札幌市)

12日(火)

むつ湾東湾海域組合長会議

(青森市)

18日(月)

ほたて貝へい死対策会議

(青森市)

20日(水)

漁協合併先進地視察(南茅部)

21日(木)

ほたて貝へい死に係る陳情

(青森市)

21日(木)～22日(金)

東北・北海道漁協専務参事

懇談会(札幌市)

25日(月)

東通地区漁協合併研究会

専門部会(東通村)

27日(水)

WTO日本提案実現

全国漁民大会(東京都)

28日(木)

青森県定置漁業協会研修会

(青森市)

9月

4日(木)

日本海北部資源回復計画

ブロック協議会(新潟市)

8日(月)

青森県沿岸漁業改善資金

運営協議会(青森市)

12日(金)

JF経営動向把握システム

全国説明会(東京都)

19日(金)

広域漁協合併対象地区

巡回報告会(青森市)

20日(土)

小型いか釣とトロールとの

漁労長会議(八戸市)

21日(日)

ほたての祭典2003(平内町)

29日(月)

青森県水産業改良普及会

漁業研究現地視察

(風間浦村)

県内漁協職員紹介

川内町漁協

川内町

川内町は、青森県下北半島西部の陸奥湾沿いに位置し、人口5,400人、総面積は323.66km²で下北最大、深い山々、穏やかで恵みを与える海、清らかな川など自然に恵まれ古くから漁業と林業、それに伴った産業で栄えてきた町です。

見所は、川内ダム周辺、川内川渓谷の紅葉、ほたて貝、トゲクリガニ、ひばっ子そば・ラーメンなどの特産物があります。

今回は、地まきほたて、なまこの水揚げで忙しくなる川内町漁協の皆さんを紹介致します。



- 1.氏名
- 2.担当業務
- 3.趣味・特技
- 4.自己PR



- 1.酒 井 清
- 2.総務部・総務課長
- 3.機械いじり・重機操作
- 4.平日は仕事の鬼となり、休日は家族サービスを欠かしません。



- 1.長 内 隆
- 2.総務部・経理課長
- 3.パチンコ（プロなみ）
- 4.パチンコ店は第2の職場、1年365日通っている大のパチンコ好きです。



- 1.笠 井 俊 二
- 2.総務部・指導課長
- 3.酒浴び・大きなクシャミ（本人スツキリ・回りはドッキリ）
- 4.明るく、さわやかな中年ボーイ（明るいのは頭部がベ！）



- 1.加 藤 正 幸
- 2.総務部・指導主任
- 3.競馬・万場券をゲットすること。
- 4.馬券生活を夢見る、元気だけがとりえの好青年です。皆さんよろしくネ！



- 1.中 島 智 美
- 2.総務部・経理主任
- 3.長風呂（読書しながら）
- 4.気がつくとも漁協勤めも早十数年！でも気持ちはまだまだ若いつもり。



- 1.加 藤 良 信
- 2.業務部・業務課長
- 3.パチンコ・野球
- 4.野球の投手でまだまだ若者には負けない自身があります。



- 1.宮 井 孝 治
- 2.業務部・販売課長
- 3.焼酎を飲むこと。
- 4.五木三郎という芸名を持っている大のカラオケ好きです。



- 1.板 井 直 樹
- 2.業務部・販売主任
- 3.釣り
- 4.休日は県内各地の渓流釣りを満喫しています。その後入る温泉が最高です。



- 1.岩 崎 健 悦
- 2.監視船々長兼販売係
- 3.釣り・山歩き
- 4.季節を通して海や山に出かけます。カレイ釣りはプロ級です。



- 1.澤 野 晴 子
- 2.業務部・購買主任
- 3.ダイビング？・購買未収金の取り立て
- 4.活発（口だけ）明朗、ブス、デブ、土佐犬のような性格



- 1.板 井 慈
- 2.業務部・販売係
- 3.健康器具・健康食品集め
- 4.大酒飲みの健康あたく。